



日産合成工業株式会社 メールマガジン

2015・09・01 第105号



メールマガジン第 87 号(2013 年 10 月号)でも紹介しましたが、今年の夏も、大賀ハスを見に古河総合公園に行ってきました。古河総合公園の概要や大賀ハスの誕生秘話については第 87 号で紹介していますので、ご興味があれば詳しくはそちらをご覧ください。

この大賀ハスは 1951(昭和 26)年 3 月に約 2,000 年前の地層から発掘され、発芽処理が行われました。発芽したハスを東京大学園芸試験所、千葉市千葉公園および県農業試験場に株分けし、栽培されました。そして東大の株は 1952(昭 27)年、千葉公園の株は 1953(昭 28)年、県農業試験場の株は 1955(昭 30)年に開花しています。

この結果を受けて、1954(昭和 29)年 6 月には「検見川の大賀蓮」として千葉県の天然記念物に指定され、1993(平成 5)年には千葉市の花として制定されました。そして、友好親善と平和のシンボルとして日本各地はもとより世界各国へ株分けされています。古賀総合公園の大賀ハスも昭和 50 年の公園開設を記念して千葉公園から 2 株、株分けされたものですが今では 3,000 平方メートルのハス池いっぱいになっています。

大賀ハスは花弁数が 14~24 枚、花径が 15~28 cm の、淡紅色、一重咲きの大輪の花を咲かせますが、開花してから 4 日目には散り始めます。1 日目は早朝 4~5 時ごろから花弁が緩み始め、とっくり型に開いた後、8 時ごろには閉じ始めます。2 日目は深夜 1 時ごろからゆるみだし、朝 7~9 時ごろに全開します。この時が最も優美で見頃で、香りも強まります。3 日目は深夜 1 時ごろから開き始め、9~10 時ごろに全開して花径が最大となりますが、昼ごろに閉じ始めます。4



日目は 8 時ごろまでに全開となり、花弁が少しずつ散りはじめ午後 3 時過ぎには完全に散ってしまいます。

従って、鑑賞のタイミングは花の色、姿が共に最も美しい開花 2 日目で、6~7 時に満開となります。9 時頃から閉じ始め昼前には完全に閉じますので、なるべく早い時間(7~8 時)の鑑賞がおすすめです。

さて、ニッサンメールマガジン第 105 号をお届けします。

口 蹄 疫

5 月 8 日に台湾で口蹄疫の発生がありました。約 2 年ぶりの発生です。日本との人の往来や物流も盛んな台湾で発生したことは、わが国への口蹄疫ウイルスの侵入リスクがこれまで以上に高まったと考えられます。

一方、最近はニュースにもなりません、昨年7月に発生した韓国の口蹄疫に関しては農林水産省の4月29日現在のデータを見る限り、まだ終息していません。1月からずっと途切れることなく毎週発生しています。しかも、ソウル大学の実験農場で飼育していた豚から口蹄疫の陽性反応が出たという情報もあります。ソウル大学は言わずと知れた韓国トップの大学で、わが国でいえば東大や京大の付属農場から口蹄疫が出たというようなものです。

また、今回のMERSに対してわが国は邦人の安全確保のために、在韓国日本大使館と在釜山日本総領事館に現地対策本部を設置したと発表しました。わが国の水際での防疫体制がいかに鉄壁だとしてもMERSだけではなく口蹄疫や鳥インフルエンザを繰り返し発生している韓国に対しては、現地対策本部を設置するだけではなく渡航自粛を勧告すべきだと思います。宮崎の口蹄疫発生への教訓が生かされていないような気がします。

この上は、これらの伝染病がわが国の農場に侵入しないように、農場の飼養衛生管理をしっかりしましょう。

27年度生乳計画生産目標数量719万4,000t

中央酪農会議は6月25日、生乳計画生産対策に係る平成26年度実績と平成27年度目標数量の指定団体別配分について報告しました。

報告によると26年度の全国の受託乳量は706万7,000t（前年実績比98.3%）で計画生産目標数量を2,000t上回りました。北海道は373万2,000t（同99.2%）と計画生産目標数量を900t下回り、都府県は333万5,000t（同97.3%）となり計画生産目標数量を3,000t上回りました。

これを受けて平成27年度生乳計画生産については719万4,000t（前年度実績比101.8%）、うち北海道は379万2,000t（同101.6%）、都府県は340万2,000t（同102.0%）としました。

また、27年度以降の3年間、生乳の増産・維持を基本とする中長期計画生産対策とし、中央酪農会議は指定団体と連携のうえ酪農家の経営改善と生産性向上に資するよう地域段階での生産基盤の強化の取り組みを支援することとしています。生産枠は従来に引き続き「販売基準数量」、「特別調整乳数量」、「選択的拡大生産数量」の三つです。

酪農・豆知識 第101号の概要およびURL

これからの季節、泌乳量が低下するいわゆる「秋落ち」が起こりやすくなります。その原因はいろいろと検討されてきました。一つは夏の酷暑による疲れと暑さによる飼料摂取のアンバランス(粗飼料の採食量が減るなど)による潜在性ルーメンアシドーシスの発生です。もう一つは秋になって日照時間が短くなって乳牛のホルモンバランスが崩れるというものです。周年繁殖動物である乳牛にもまだ野生が残っており、日長時間(1日のうちの明るい時間の長さ、すなわち日の出から日没までの時間)の長短や不規則な光刺激が生理的なリズムを乱すということが分かっています。そして、日長時間の変化による「秋落ち」のメカニズムが明らかになってきましたので、対策とともに「酪農・豆知識」第101号にまとめて紹介しています

「酪農・豆知識」は、当社の[ウェブサイト](#)のトップページにある「技術情報」をクリックし、「酪農・豆知識」のページに入るとご覧になれます。ぜひご利用ください。

お知らせ

印刷用の PDF ファイル

今回より印刷用の PDF ファイルを添付しました。PDF ファイルをご利用いただくためには、Adobe Reader が必要です。お持ちでない場合、[こちら](#)からダウンロードし、インストールしてご利用ください。

メールマガジンへの登録・質問等

メールマガジンの配信の停止、登録内容の変更等は当社のウェブサイトのトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

このメールマガジンへのお問い合わせ、ご意見・ご要望等、並びに技術的な問題等がございましたら、当社の[ウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

アドレス変更をお忘れなく

人事異動、転退職等でメールアドレスが変更になった場合で、引き続き日産合成工業株式会社のメールマガジンの配信を希望される方は、旧アドレスと新アドレス及び新所属等を当社のウェブサイトのトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。配信できなくなったアドレスは、メーリングリストから自動的に削除しておりますので、よろしく願いします。

また、今後の配信が不要な場合にも当社の[ウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。